学校教育目標「豊かな人間性とたくましく生き抜く力を身につける子どもの育成」

敷島南小学校
学校便り　NO,23
令和　６年２月
学校長　五味　正年

私が見つけた素敵な子どもたち

学校では自然災害が起きた時，どのように避難するかを学習し，実際に避難する訓練を年間通して行っています。１月 25 日，今年度２回目の予告なし避難訓練を行いました。「予告なし」とは，何日の何時に訓練をすることを子どもたちに知らせず行う訓練のことです。今回は，給食を食べ，一息ついた昼休みに地震が起きたと想定して行いました。

子どもたちは，遊んでいたりゆっくりしたりしている中，急に地震訓練の放送が入ったので，低学年を中心に大きな声を出し，どうしていいかわからない子が何人もいましたが，高学年の中に，落ち着いて声をかけ，その場に座るように指示を出せる子がいました。見ていて，大変素晴らしいと思いました。いざというときに，慌ててしまうことはあります。そんな中，落ち着いて判断できる力がついてきている子がいることを嬉しく思いました。

地震や災害の時の対応の確認をお願いします

地震などが起きた時，いつもそばに大人がついているとは限りません。子どもたちは，自分で判断し，自分で逃げる方法を学んでいかなければなりません。１月１日には，能登で大きな地震が起きましたが，山梨県でも起こる可能性はあります。１月２５日にメールでお知らせした「災害発生及び警報発表･避難情報発令時に伴う対処」を確認し，ご家庭でもどのように避難したらよいのか確認しておいてほしいです。

雪かきでのこと

２月５日には，天気予報で雪の予報が出ていました。甲斐市は，積雪５ｃｍ以下という予報でしたが，その日，午前 10 時半頃から降り始めた雪は強さを増し，次の日には校庭一面に１０ｃｍほどの雪が積もりました。

そのため，２月６日は，大雪の影響で午前 7:00 頃の路面の凍結や交通の乱れを予想し，子どもたちが安全に登校できるよう２時間遅れの 10:20 の始業としました。この日，私はバスと歩きで通勤しました。午前 8 時頃，学校入り口の点滅の交差点にさしかかると，１人の男性が雪かきをしていました。一声かけ，学校に向かいました。

学校へ着くと，すでに早く来た職員が校地内の雪かきを始めていました。子どもたちを安全に迎え入れる準備が着々とされていました。こんなに雪が降ってしまうと，広い校地内の雪をかくには大変な労力や時間がかかります。そのことを見越し，本校の職員は，率先して早く出勤し，子どもたちが登校するまでに雪かきをすることができるのです。本当に頼りになります。こうして，校地内の子どもたちが通る場所は，危険のないよう雪をどけることができました。同時に，登校で子どもが一番多く通る通学路の雪かきも力を合わせて行いました。校外へと出て，子どもたちが安全に通れる道を確保することが大切です。

正門から点滅信号に向かって雪かきを進めていくと，先ほど雪かきをしていた男性が雪かきを続けていました。「ありがとうございます。」と一声かけ，甲斐松ノ尾通りまで雪かきをしていくと，通り沿いのお家の方々が雪かきをしていました。「家の前だから車を出すためにする。」ということかもしれませんが，外に出て通学路をきれいにしていただけたことがとても嬉しく，ありがたかったです。雪かきが終わり，学校へ戻ると，学校入り口の点滅信号の辺りの雪がすっかりなくなり，きれいになっていました。通学路全てを回って確認することはできませんでしたが，子どもたちが無事に学校へ着いたことを考えると，地域や保護者の方々が，多くの箇所でお手伝いいただけたのではないかと思っています。ありがとうございました。

校庭での雪遊び

校庭一面に降り積もった雪は，子どもたちの心をとてもワクワクさせるものです。子どもたちは学校に着いて校庭一面の雪を見た時，頭に巡るのは「休み時間に雪で遊びたい。」だったと思います。雪遊びは，雪だるまを作ったり，雪合戦をしたり，かまくらを作ったりといろいろありました。どの学年の子どもたちも濡れるのも忘れて，夢中で雪遊びをしていました。

その中で，ある程度の大きさの雪玉を作り，何個も高く積み上げたものがありました。先生も手伝いながら，何人かで協力しながら作っていました。かまくら作りにも挑戦した児童がいました。小さいながらも，一生懸命作り，２人で一緒に入って楽しむことができていたようでした。

大人には迷惑な雪も，子どもたちにとっては，空からの贈り物なのですね。

橘田篤男先生を迎え国語の授業が行われました

２月５，６日には，橘田篤男先生をお迎えし，「生きる」の詩の指導が６年生３クラスで行われました。子どもたちとの対話を中心に，感じたことを発表しながら進められました。

＜子どものお礼の手紙から＞

２月の５，６日雪が降る中，私たちに「生きる」という詩を教えてくれてありがとうございました。谷川俊太郎さんが「生きる」にこめた思いや工夫を知ることができました。例えば，連の最初を同じにしている。「泣く」ではなく，わざわざ「泣ける」と書いている。鳥は・・・こと 海は・・・ことを７音にそろえている。全ての連が３つに分けられ，最後に，俊太郎さんの思いが書かれている。このことを知ることができました。俊太郎さんが伝えたかったことは「人は愛することが自然で，それが命ということだよ。」と伝えたいんだと私は思いました。「生きる」を教えてくれて，本当にありがとうございました。

※橘田篤男先生は，山梨県で教員として働き，19 年前に上野原小学校校長を退職されました。周りの勧めもあり，「子どもたちのために」との思いで 65 歳まで教員を続けられました。その後，長い間，研究を続けられてきた「国語指導」を生かし，県内各地を回り 100 校以上で指導にあたり，実績を上げてこられた先生です。